

地方創生推進交付金事業評価シート

項番	施策・事業内容						重要業績評価指標 (KPI)						外部検討委員会 評価	備考
	事業の名称	事業の概要	事業実績額(千円)	事業の内容	担当課	評価	指標	基準値	H29年度末実績値	H30年度末目標値	H30年度末実績値	5年後の目標値		
①	地域を主体とした世界農業遺産活用戦略推進事業	<p>【課題】</p> <p>みなべ、田辺地域は、国内最大の梅の生産量を誇り、梅干し等の加工業が発展してきた。2012年の梅の生産量は4万4千トン、農業産出額は130億円以上、加工品の製造も含めると約700億円となり、梅の生産農家、梅の加工業など梅関連産業の従事者は全就業人口の約7割を占め、まさに地域の基幹産業となっている。</p> <p>しかし一方で、米食の減少や若者の梅干し離れなどによる梅の消費量の減少、価格の低下により、梅の生産量や加工品の売上額が縮小し、地域の経済、雇用にも影を落としつつある。</p> <p>【事業概要】</p> <p>元気なまち、元気な若ものを育成するため、世界農業遺産の活用保全の中で、住民を主体とした取組を推進、地域の魅力を発信できる人材、地域に残る人材、リーダーとなれる人材を育成する。また世界農業遺産の認知度向上、梅や関連特産品の消費拡大のため、首都圏でのシンポジウムの開催、国内8つの世界農業遺産認定地域と共同で都市圏での物産展開催や、認定地域間のコラボ商品の開発等に取り組む。</p> <p>さらに、梅（UMÉ）関連製品の輸出、海外市場開拓のため、海外のシェフによる梅を使ったメニュー開発やレストラン等のパイヤーを呼んでの商談会、メディアを呼んだ海外発信により、地域内事業者と海外とのネットワーク構築を図る。</p> <p>その他、地域（梅システム）の保全のため、官民学（行政、地域、大学、高校）が連携して、ミツバチによる生物多様性評価の分析を行い、今後の地域の梅のブランディング、新たなミツバチ関連の商品開発に繋げる。また海外研修生の受入を推進し、世界に梅産業・文化を発信していく。</p>	9,447	<p>【人材育成事業】 2,547千円</p> <p>世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」を理解し、発信できる人材「梅システムマイスター」を育成するため、和歌山大学と連携し、年間4回（5日）の講座及び現地研修を開催。</p> <p>受講生 社会人 13名 学生 6名</p> <p>子ども（小学生）への世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」を知ってもらうため、学校の授業で活用できる副読本を1,900部制作し、みなべ・田辺地域各小学校へ配布。</p> <p>住民主体で実施する、保全活用の取組6団体への支援を行った。</p> <p>【調査研究・活用検討事業】 1,559千円</p> <p>梅システムに欠かせない、ミツバチや生物多様性に関する調査研究を京都産業大学、地元養蜂家、地元高校と連携し、梅へのミツバチの貢献度やハチミツ（生産物）に含まれる梅の蜜を分析を行った。</p> <p>2016年度に作製した活用プランの検討、作成のため組織した専門部会を引き続き、活用プランの推進の中心として、ワークショップを3回開催し、地域の住民約50名が参加した。</p> <p>【海外戦略事業】 4,082千円</p> <p>JETROとの連携事業として、梅・梅加工品の海外市場販路開拓のため、アメリカを対象として、現地シェフによる梅・梅加工品2品を活用したレシピの開発。また梅加工事業者2社も参加した、レシピ発表会及び現地のレストラン等での商談を行うなど商流の構築を図った。</p> <p>世界農業遺産申請を目指すエチオピアとウガンダから研修生10名を招聘し、持続可能な農業（梅システム）の説明や若手農家との交流会を実施。</p> <p>日本・中国・韓国の世界農業遺産認定地域が情報共有を行う東アジア農業遺産学会を開催し、日中韓また地元から約300名が集まり、ネットワークの強化を行った。</p> <p>【消費拡大及び情報発信事業】 1,257千円</p> <p>国内外の消費者向けに、世界農業遺産や梅を含めた地域特産品をPRするため、シンポジウムを開催し、啓発グッズの配布や現地案内を行った。また国内認定地域と共同で物産展等を開催し、梅干しなどの特産品の販売、啓発グッズの配布等を行い、世界農業遺産の認知度向上を図った。</p>	うめ課	B	①訪日外国人宿泊客数	81,809人	78,996人	101,809人	78,805人	131,809人		
							②新規就農者数	10人	24人	17人	25人	30人		
							③二ホンミツバチの飼養数	364群	393群	414群	131群	564群		
							うちみなべ町分							
							①訪日外国人宿泊客数	50,851人	42,175人		34,866人			
							②新規就農者数	3人	9人		6人			
							③二ホンミツバチの飼養数	167群	236群		20群			

施策・事業内容の評価欄について

- A: 地方創生に非常に効果的であった(全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)
- B: 地方創生に相当程度効果があった(一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)
- C: 地方創生に効果があった(KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進し・改善したとみなせる場合)
- D: 地方創生に対して効果がなかった(KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合)

外部検討委員会の評価欄について

- A: 総合戦略のKPIの達成に有効であった
- B: 総合戦略のKPIの達成に有効とは言えない